



田食 道弘 議員

質問

援農ボランティアで支援を

町長

他団体の状況を研究してみる



東京では援農ボランティアを養成

質問 援農ボランティアは農家を支援し、営農を継続できるようなボランティアとして農作業を手伝う活動を行うことだ。人手不足に悩む農家と農業をサポートしたい消費者を結ぶ事業でもある。

「東京の青空塾」では一定の研修を通じて援農ボランティアを養成、認定している。その後に区市町村で活動されている。

学習機会とするなど、援農ボランティアを募集、養成する体制整備に取り組んでは。

町長 農業に関心を持っていただけるきっかけとなる事業だが、水稲中心の本町の実態と農家のニーズ、ボランティアに参加しようとする都市住民のニーズをマッチングさせるには多くの課題がある。担い手の確保につながるようにするには、まず他団体の状況や取組みについて研究したい。

町長 水辺の楽校については、県が整備し本町が通常の維持管理を受け持ってきた。仁多土木事業所と今後の活用策や在り方を協議したい。

質問 馬木小学校校舎改築にあわせ29年前に幼稚園と小学校の敷地内を流れる小川が、全国初のモデル事業として水辺の楽校「せせらぎの里砂田川」と称して整備された。子どもたちにとって素晴らしい施設だが、3月の小学校閉校後は利用されていない。

子どもたちにとって安全な遊び場として大いに活用すべきであり、水辺の児童公園として整備してはどうか。

水辺の楽校を児童公園に



旧馬木小学校敷地内を流れる砂田川

質問 子どもも使いやすい公衆トイレは設置できないか。

グラウンドの遊具は定期点検を継続し、草刈り等も町で実施していく。

本町での老老介護、認認介護の実態把握の状況と行政からの支援

その他の質問

町長 跡地利用とあわせて検討したい。